

発言No. /

受付No. 6

令和 6 年 8 月 21 日

2 時 18 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 15 番

氏名 岡本 正友

答弁を求める者

(口をつける)

☐市長

☐教育長

☐監査委員

☐選挙管理委員会委員長

☐農業委員会会長

☐固定資産評価審査委員会委員長

☐公平委員長

発言項目及び要旨

8/1 に開催された島根県市議会議長会主催の議員研修会(講師:佐々木淳ドクター)において『超高齢社会に求められる地域医療のかたち』と題して、「医療依存度から、家族や友人・地域の社会資本などケアへの依存」と「高齢者健康寿命から社会参加寿命の推進」の視点で講演を聞いた。高齢者への診療経験から 14 項目の考察を導かれており、大変参考となる研修であった。その研修を踏まえ、かつ、会派の視察研修における他市の取組を参考に、当市の地域が元気になる仕組みづくりについて質す。

1 地域が元気になる仕組みづくりについて (SDGs11)

(1) 漁港の朝市について

千葉県いすみ市では、H24 年市長の指示によって、市と商工会が起点となって「港の朝市」運営委員会を設立。日曜日の午前中に限定して、大原漁港内で運営している。生鮮魚介類や干物、生鮮野菜、果物などの地元特産品や農水産商工産品を豊富にそろえ、現在年間約 10 万人の客数と 1 億 2000 万円の売上をあげている。

- ① 浜田市における地域の朝市等の開催状況を問う。
- ② はまだお魚市場周辺のイベントの開催状況を問う。

(2) 高齢者等買い物支援対策事業について

いすみ市では、高齢化や事業後継者不足などの影響から商店街が衰退し、個人で経営していた食品や生活雑貨販売のスーパーや商店などが大型スーパーなどの進出により閉店したため、令和 3 年から高齢者等への買い物支援の取組を行っている。現在、ドラッグストアやかかりつけ薬局、在宅医療、介護サービスとスーパーマーケット、スポーツ用品販売などを展開する『ヤックス』が「ヤックスの移動販売スーパー」として新たな事業として開始している。

- ① 浜田市における移動販売の状況を問う。
- ② 高齢者の買い物支援の状況を問う。

(3)オーガニックビレッジの取組について

化学肥料や農薬を使わない有機食材を給食に取り入れる動きが広がりつつある。いすみ市では有機栽培を行う農家（小さな営農組合「農事組合法人みやねの里」）を支援し、2017年10月から学校給食をすべて有機米に変え、2022年から給食費の無償化を実施している。

- ① 浜田市における有機農業の取組状況を問う。
- ② オーガニック給食の実施について所見を問う。

(4)浜田郷土資料館の建替について

東京都練馬区にある石神井公園ふるさと文化館は、伝統文化を生かし、新たな地域文化を創造するため、観光振興にも寄与する博物館機能を有する生涯学習施設として、練馬区立石神井プール敷地に2010年に古民家「旧内田家住宅」とともに開設された。

- ① 郷土資料館建替に一定の方向性が示されているが、他の分野の展示物との併設展示の可能性を問う。
- ② 視察から郷土資料の保全展示の必要を感じる。郷土資料館の集客力をあげる方策を問う。

2 これからの安全安心対策について (SDGs9)

(1)能登半島地震からの課題について

- ① 1/1 に発生した能登半島地震では老朽化した水道管への甚大な被害により長時間の断水が起こった。同様な事態を防ぐためにも、耐震化の更新速度を速める対策が必要と思うが所見を問う。
- ② 能登半島地震の震災を踏まえた取組が示されている。また先の南海トラフ地震の予測からも、地震災害に対応できる体制づくりの必要性を感じるが所見を問う。

(2)増える1人暮らしの高齢者対策について

8/14 地元新聞の「死後事務のニーズ拡大」と題して、身寄りのない高齢者が増え、また、誰にもみとられずに、自宅で亡くなる孤独死の増加から、人と人との関係が薄れる「無縁社会」に対する問題を定義する記事を見る。高齢者が安心して生活できる仕組みが必要と考える。

- ① 浜田市における1人暮らしの高齢者の状況を問う。
- ② 避難行動要支援者の避難支援についての所見を問う。
- ③ 個別避難計画の中に「高齢者身元保証等サポート」に関する記載を入れる仕組みについて見解を問う。